

# 平成10年度「介護等体験」の流れと検討

## — 千葉敬愛短期大学の事例 —

野 老 慎 二 郎

Nursing Care Course Experience during 1998

— A Case Study at Chiba Keiai Junior College —

Shinjiro TOKORO

### は じ め に

平成10年4月入学者から、小・中学校教員の免許状を取得しようとする者は、社会福祉施設等での介護実習実施が義務付けられた。本学では、2年次に、小学校又は幼稚園での約1月の教育実習が位置づけられていることから、勢い、この介護実習を1年次に実施せざるを得ないと判断し、平成10年4月以降その準備を開始した。

平成10年10月15日現在、介護実習終了者が約50%程度、これから実習に参加する者が相当数残っている状況であるが、現時点までのこの事業の経過を整理し、今後の課題等含め、レポートしたいと考え、この報告書を作成したところである。この事業を真に意義深いものとして位置づけるため、今後の改善すべき事項等御指摘いただければ幸である。

### 1. 盲・ろう・養護学校の介護実習

千葉県教育委員会主催による介護実習担当者会議が平成9年度末（平成10年3月24日）に千葉市において開催された。本学学生の盲・ろう・養護学校の実習校は、県立四街道養護学校である旨、その会議において内示された。

平成10年4月中旬に、県立四街道養護学校を訪問し、介護実習期日の調整を行い、表1のとおり、本年度の実習日程を定めた。

表1 介護実習日程（県立四街道養護学校）

回数	期 日	参加クラス	人数	回数	期 日	参加クラス	人数
1	6月10日(水)～11日(木)	1年A組	14名	7	10月21日(水)～22日(木)	1年C組	14名
2	6月24日(水)～25日(木)	1年A組	14名	8	11月4日(水)～5日(木)	1年C組、1年D組	14名
3	7月1日(水)～2日(木)	1年A組	13名	9	11月11日(水)～12日(木)	1年D組	13名
4	7月8日(水)～9日(木)	1年A組	14名	10	12月9日(水)～10日(木)	1年D組	13名
5	7月15日(水)～16日(木)	1年A組、1年C組	13名	11	12月16日(水)～17日(木)	1年D組	7名
6	9月16日(水)～17日(木)	1年C組	13名	合計			142名

## 2. 社会福祉施設の介護実習

社会福祉施設での介護実習については、当初、実習場所がどのように決定されるのか不明であった。そこで、平成10年4月初旬、千葉市の県社会福祉協議会事務局を訪問した。その結果次の点が明らかとなった。

- ・4月中に社会福祉施設の介護実習要綱を作成し、各関係機関に配布の予定であること。
- ・5月当初に、「介護実習申込書」及び関係書類を各関係大学等に配布の予定であること。

### (1) 介護実習申込み等事務手続き

- ① 5月8日(金) 県社会福祉協議会の作成した「介護実習申込書」及び記入要領等関係書類が本学に到着。
- ② 5月13日(水)の午後、実習Ⅰ、「介護実習」の時間に、「介護実習申込書」等関係書類を学生に配布し、留意事項等説明。
- ③ 「実習申込書」に記入すべき主要な項目は、実習の期日、施設の種別、施設の所在する希望市町村名の3点である。
- ④ 本学としての実習可能日は、原則的には、夏期休業期間及び年度末休業期間と判断し、学生に対し、この時期を希望するよう指導した。
- ⑤ 5月末日の〆切となっていたので、5月28日、県社会福祉協議会事務局へ137名分の申込書を持参。
- ⑥ 当初、6月中に決定施設等の回答の予定。6月30日(火)、同協議会事務局訪問、実習施設の決定状況を尋ねるも未決定とのこと。

実習可能施設の不足で、希望日には割当て不可能、10月1日から12月31日まで、割当てたいがどうかとの申し出がなされた。即答できないので、後日回答する旨約束する。

- ⑦ 7月1日(水) 学内教職委員会で、下記の期日の実習参加は、やむを得ないとの結論に達した。直ちに、県社会福祉協議会へその旨電話で回答。

10月19日(月)～10月23日(金)    11月9日(月)～11月13日(金)    12月14日(金)～12月18日(金)  
11月2日(月)～11月6日(金)    12月7日(月)～12月11日(金)

- ⑧ 7月8日(水)、「実習施設等決定通知書」(7月7日付け県社会福祉協議会発文書)本学に到着、7月10日(金)、教務課窓口にて各学生に配布。

### (2) 介護実習施設の種別等について

#### ① 実習施設の種別

本学学生実習予定者137名の実習施設の種別は、表2のとおりである。

表2 実習施設種別一覧

施設種別	実習学生数
特別養護老人ホーム	58名
精神薄弱者更生施設	31名
救護施設	13名
身体障害者療護施設	12名
その他	23名
合計	137名

次に、本学学生を受入れた施設は、総数で56施設であった。その施設を種類別に分けると表3のとおりとなる。

表3 実習生受入れ施設の種別

施設種別	受入れ施設数
特別養護老人ホーム	23
精神薄弱者更生施設	8
身体障害者療護施設	6
老人サービス	4
老人ホーム	3
身体障害者授産施設	3
救護施設	2
その他	7
合計	56

1施設での学生受入れ数の平均は、2.4人となっている。

なお、1施設での本学学生受入れ数の最も多かった施設は、成田市愛光園（救護施設）及び佐倉市木の宮学園（精薄更生施設）の各11名の学生受入れであった。

## ② 実習施設の所在地（市町村）について

実習施設の所在市町村は、24市町村に及び、県内各地の施設で実習が行われた。

表4 実習施設の所在市町村

施設所在市町村	施設数（実習先）
千葉市	12
船橋市	7
佐倉市	5
四街道市	3
市原市	3
その他	26
合計	56

上記のうち、その他の市町村は、19市町村に及び、いずれも1ないし2施設で実習させていただいた。

### (3) 福祉施設介護実習の期日

介護実習の期日については、本学の行事等を勘案し、夏休み、年度末休業期間等に申込みよう指導した。しかし、受入れ施設等の都合により、10月ないし12月実習の学生が24名生じた。

表5 実習期日と参加学生数

実 習 期 日	参 加 学 生 数
7月20日～ 9月10日	63名
10月19日～12月18日	24名
11年2月1日～ 2月26日	50名
合 計	137名

全体として、約80%弱の113名の者が、希望に沿って、期間が割振られた。

## 3. 学生を対象とした事前・事後指導

### (1) 事前指導

原則として、月の第1水曜日の第4限を介護実習の講義日と定め、事務連絡、希望調査資料配布など行った。養護学校、福祉施設の実習期日が、学生により大巾に異なるので、実習時期の2週間前に、事前指導を特設して実施せざるを得なかった。

表6 事前指導の期日と内容

期 日	指 導 内 容	参 加 対 象
4月6日(月)	介護実習の趣旨、希望調査	1学年全員、オリエンテーション
5月13日(水)	福祉施設実習の希望調査	施設実習希望者全員
5月16日(土)	四街道養護学校、事前訪問	クラス代表各2名 計6名
6月10日(水)	養護学校の実習について	実習参加者全員
7月1日(水)	福祉施設の実習について	実習参加者全員
7月15日(月)	福祉施設の実習について	7月～8月に実習する学生
10月2日(金)	福祉施設の実習について	10月～12月に実習する学生
12月9日(水)	福祉施設の実習について	2月に実習する学生

(2) 事後指導

① 学習日誌の作成

実習ノートを用意させ、事前指導の記録、実習日誌の作成を指導した。実習終了後、提出するよう指導している。

② 感想文の作成

実習終了後、2週間以内に、原稿用紙3枚程度感想文を作成し、提出するよう指導している。

なお、実習報告会については、実習期日が異なるので、本年度は実施しない予定である。

また、今後の参考資料とするため、アンケート用紙を作成し、実習参加者の意見等集約したいと考えている。

4. 今後の検討課題

(1) 実習日程について

① 養護学校の実習

平成11年度も県立四街道養護学校で実習させていただけるものと思われる。平成11年7月から翌年3月まで、毎回14人前後で実施できるものと考えている。

② 社会福祉施設の実習

夏期休業中の8月から9月まで及び平成12年2月7日から2月末日までの間に、申込みよう学生を指導してまいりたい。同じ学生が養護学校の実習と重複しないよう、期日の調整を適切に行ってまいりたい。

③ 実習の開始時期が、養護学校実習、福祉施設実習ともに、10日前後本年度より遅くなることとなり、事前指導の期間が長く、より充実した指導が可能となる。

(2) 福祉施設事務手続きについて

① 日程の調整について

平成10年度の実績で、137名中24名の者が、当初希望しなかった10月から12月にかけて実習することになった。平成11年度は、新しく、4年制大学も実習に参入すると思われるので、施設不足のため、希望しない時期に割当てられることが十分予想される。その際の実習候補期間を本学として、あらかじめ考えておくことが必要と思われる。

② 希望市町村及び希望施設種別

この点については、平成10年度においても、希望がかなえられなかったケースが多いので、あらかじめ、学生にその旨指導の徹底を図りたい。本年度の状況を整理し、資料として配布し、指導の際活用してまいりたい。

(3) 事前指導・事後指導等について

① 事前指導

本年度は、その都度必要と思われる資料を印刷し、事前指導の際配布した、次年度は、必要事項を冊子にまとめ、年度初めの早い時期に学生に配布し、両実習について深く理解させる。

福祉施設実習の場合、平成10年度の実績では、実習参加総数137名中、58名が特別養護老人ホームでの実習であり、全体の42%に相当する。実習施設が決定した7月頃の時期に、施設種別ごとの学習の場を設定し、理解を容易にするとともに、施設に行った際、すぐ適応できるように指導しておきたい。

ビデオ等視聴覚教材の活用、施設関係職員等外部講師の活用など前向きに検討したい。

② 事後指導

学生の感想文などを見ると、指導を経験しての感動、自分の知らなかった分野のことを経験し、人の役に立つことのできた喜びなどが記述されている。これらを話し合い、発表できる場の設定を今後考えていきたい、本学では、クラス編成となっているので、クラスの時間を活用するのも一つの方法と思われる。

実習日誌、感想文の作成は、実習の意義を確かめ、意識の向上に資すると思われるので引き続き実施し、提出させたい。

③ 実習施設の訪問

本年度は、県立四街道養護学校を除き、本学として実習施設を訪問していない。今後の学生の指導のためにも、施設の意見を聴取し、それを反映させる必要があると思われるので、関係機関の意見を参考にしながら、実習施設訪問を実施する方向で検討してまいりたい。

(4) その他

① 実習に係る経費の徴収

本年度は、社会福祉施設に支払う経費7,500円を5月に教務課窓口で徴収した。次年度は、年度始めに、社会福祉施設等経費、事前指導講師謝礼、学習資料代及び保険料等合わせて、一括徴収することを検討してまいりたい。

② 実習参加者の意識向上

平成10年10月時点において、実習先での大きなトラブル等の報告はない。しかしながら学生の短大での生活態度等からみて、実習に参加させるのには、無理があり、どうかと思われる者が見うけられる。本年度は、初年度であるので、施設等で大目に見て、許してくれたことも多いのではないか。今後、真面目に実習に取り組む姿勢をより一層育成していくことが必要である。

## 5. おわりに

平成9年度末に、介護実習の担当を命ぜられた時、正直申上げてめんどろな仕事が廻ってきたというのが、第一印象であった。18歳そこそこの短大入学したばかりのこの一年生が、果して7日間の実習に堪えられるだろうかとの思いが強かった。ひ弱そうに見えた彼女達（一部男子もいる）を激励しながら、実習に送り出して半年が経過する。何とか無事実習を終えて短大に帰ってくる。信じられない思いがする。

実習を引き受けてくれた養護学校や福祉施設の教職員の皆様方に、いろいろ迷惑をかけていると思うと頭のさがる思いである。折角の介護実習であるので、学生にとって有意義な実のあるものにしたいと考えている。次年度以降の工夫改善に努めることが、関係機関でお骨折りいただいた方々への恩返しになると思う。学内の指導の充実に努めてまいりたい。

参考文献 「介護等体験受入決定通知書」 平成10年7月7日 千葉県社会福祉協議会事務局長発  
「介護等体験の実施について」 平成10年6月 文部省教職員課作成 参考資料